

ばれっと

2007
8月
No.96

いよいよ夏休み。

海や山もいいけれど、サポセンに遊びに来てみませんか？

■ 目次 ■

- P. 2～3 すぽっとらいと 「仙台筆笥を伝承する会」
- P. 4 サポセン日記
- P. 5 ミニ サポダス
サポ本を読もう！
サポセン広場
- P. 6 アラカルト NPO・小さな市民活動団体の運営の秘訣 シリーズ
第1弾 立志編 報告
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など



～ サポセンの日常風景 ～

1階にある情報サロン。
団体のチラシやパンフレットが
たくさんあります。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

仙台筆筒の本質を探り、その魅力を市民に伝えて地域に普及させることで、人々の健全な生活に貢献することを目的として活動している「仙台筆筒を伝承する会」代表の伴野崇（とものかし）さんからお話を伺いました。



代表の伴野崇さん（右）と副代表の阿部隆史さん（左）

■仙台筆筒とは？

もともとは仙台の地場産業として発展を遂げた仙台筆筒。その歴史は江戸時代までさかのぼります。刀がすっぽり収納できる筆筒として武家で重宝され、その後は庶民へも普及した工芸品です。

しかし、大量生産・大量消費の社会となった現在、仙台筆筒もその流れに飲み込まれつつあると伴野さんは言います。第二次世界大戦後、職人の徒弟制度が崩壊し、手仕事の技術衰退や後継者不足が起きました。また、人々の生活様式も徐々に変わってきて、筆筒もそれに合ったスタイルへと変化していったのです。「時代や生活様式が変わっても、仙台筆筒の魅力は揺るぎないもの。そのルーツを伝えていきたい」と伴野さんが熱く語ります。

■作り手の立場を生かして

筆筒は先祖代々何代にも渡って使い続けるものでした。そして職人は、その筆筒がずっと使えるように修理やメンテナンスをしていました。しかし最近ではお客さんから、本来の仙台筆筒の素材ではない安い木材で修理をしてほしい、と言われることもあるそうです。ご自身も筆筒職人である伴野さん。「このままでは筆筒職人も使い捨て社会の加害者になってしまう」という危機感から、同じ職場で働く阿部さんと2人で、職人のプライドを掛けて2006年にこの団体を立ち上げました。

まず伴野さんたちは、使い手（消費者）である市民に仙台筆筒のすばらしさを広め、いい品を見極める目を養ってもらおうと考え、市民に仙台筆筒の理解を促すためのイベントを実施しました。その名も「仙台筆筒復刻祭」。昨年10月に開催され、定員の20名を大きく超える40名の参加があり、会場となった仙台筆筒伝承館は人でいっぱいになりました。

イベントの目玉はなんといっても仙台筆筒の組

立作業の実演。そのほかにもカンナの使い方を体験するコーナーや芋煮を食べながらの語らいの場などを設けて、仙台筆筒に親近感を持ってもらうための工夫を凝らしました。素材にあくまでもこだわりたいということで、芋煮を食べるときのお椀も漆塗りのもの、お箸も塗り箸を使用したそうです。

■人とのつながり、交わり

「市民活動ってわかりにくいんですね」と話す伴野さん。初めてのイベントを大成功に納めた伴野さんたちですが、周りの理解を得るには苦労したそうです。まずは同業者の方に「仙台筆筒復刻祭」の企画を説明し、仙台筆筒の復刻作業に協力してくれるよう頼みましたが、「資本もないのにどうやってやるんだ」と全く相手にしてもらえませんでした。材料を買い揃えなくては筆筒も作れないというわけです。

市民活動は、たとえ十分な資本がなくても何とかなくちゃという“想い”からスタートするもの。組織や資金がはじめにあっても、強い“想い”がなくては動き出せません。伴野さんの想いからはじまった今年のイベント成功で実績をあげることができ、最近では自分の団体について説明するときも、周囲の理解を得やすくなったと感じています。



団体紹介

「仙台箆笥を伝承する会」

仙台箆笥の魅力を広く理解してもらおうと、2006年に活動をスタート。仙台箆笥が一般家庭へ普及した明治時代の手法で箆笥の制作に取り組んでいる。昨年制作過程を公開する催しを開催、そして今年は完成した復刻版仙台箆笥を披露するイベントを開催予定。

<団体連絡先>

〒984-0061
 仙台市南鍛冶町143
 電話：090-9743-7529
 代表：伴野 崇



また伴野さんたちは、活動に賛同してくれる会員を集めることにも力を入れています。雑誌で協力してくれそうな人を見つけたらすぐにアポイントを取って、話を聞いてもらいに出かけるそうです。伴野さんたちの熱い想いを理解して会員になってくれる方もいるそうで、現在15名の会員がいます。この熱意ある努力が実って、人とのつながりができ、団体の活動の場に広がり生まれています。

■活動していくために

伴野さんと阿部さんは、仕事の後にサポセンへやってきます。助成金の応募書類を作ったり、団体のパンフレットを作ったり。いつもはノコギリやカンナといった道具を手箆笥に向うお二人ですが、パソコンの前では四苦八苦しています。書類の書き方からパソコンの使い方まで、わからないことはスタッフに相談して解決しています。助成金の応募を重ねた結果、みやぎNPO夢ファンド(※)の助成が決定しました。

この助成金を得たことで、今年のイベントの開催が可能となりました。

■今年もイベントに向けて、活動中！

今年は実行委員会形式による取り組みとして、学生や一般の市民が協力者として手を挙げてくれたそうです。これも今年のイベントの成果です。

今度のイベントは「仙台箆笥復活祭」と題し、8月28日～9月1日の5日間、東北電力グリーンプラザ・アクアホールで行われます。幕末から明治・大正期に制作された仙台箆笥を展示するほか、他団体とのコラボレーションにも挑戦し、岩手県の日本うるし掻き技術保存会がパネルや道具の展示を行う予定です。人々の日常の中から生まれた「工芸」の魅力を最大限に引き出すような展示にするそうです。

また、パネルの展示により、環境保護の視点も取り入れて市民へ訴えていきます。「知ってもらおう」から、「もう一步踏み込む」ための仕掛けというわけです。

開催にあたってはイベント運営のスタッフが足りなくて困っていましたが、当日は学生環境サークルが運営をサポートしてくれる予定です。サポセンでの出会いがキッカケで、活動に賛同してくれることになったのだそうです。

■持続可能なものづくりに向けて

「造り手が先々のことを考えてものづくりをしなくてはならない。すべての造り手が、人と自然が一体となったものづくりを実践していかなければならない」と言う伴野さんの言葉には、強い意思が感じられます。

箆笥を造る職人から、箆笥を伝承する職人に。職人のもう一つの道筋を、伴野さんは築いているのです。夜の7時頃、今日も伴野さんと阿部さんがサポセンへやってきます。

(担当：千葉やす恵)

※みやぎNPO夢ファン

宮城県からの拠出金と市民からの寄附を原資として運用されているNPO支援基金で、宮城県内のNPOへの助成事業を行っています。

◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに使えるのか紹介します！

サポセン日記

今月のテーマ

～ 図書コーナー ～

市民活動に役立つ情報を
幅広く収集できる「図書コーナー」

●図書コーナーってどんなところ？

市民活動に関する図書資料を、市民の皆さんが自由に閲覧できるコーナーです。1階情報サロンの一番奥にあり、図書の貸し出しも行っています。図書資料は22分野に分類されており、総数は約3200冊もあります。本だけでなく雑誌、ビデオ、DVDなどの資料もあります。

「NPOの基礎が分かる本はどれ？」「法人化の参考になる本はどれ？」など、お悩みの際は、スタッフがサポートしますので、お気軽にお声がけ下さい。また、図書コーナーでは毎月テーマを決めてピックアップした推薦図書をご紹介しますので、こちらもご利用下さい。

●図書を借りるにはどうするの？

借りたい図書が見つかったら、1階事務局まで図書をお持ち下さい。その際、図書資料貸出カードをご提出のうえ、貸出票に記入いただければ図書を借りることができます。図書の貸し出しは最大2冊まで、期間は最長2週間です。また、白書など貸し出しできない図書もありますのでご了承ください。

カードをまだお持ちでない場合は、すぐ事務局で発行できます。その際、身分証明書が必要になりますので、忘れずにお持ちください。

●こんな本も読みたい！そんな時は…

市民活動に関係する本で、読んでみたいけどサポセンにまだ無い図書がございましたら、「リクエストカード」に図書名をご記入の上、事務局へ提出してください。図書を購入する際の参考にさせていただきます。

おすすめ図書があれば、どんどん情報を事務局までお寄せ下さい！利用者のみなさんとつくっていくサポセンです！

サポセンスタッフに聞いてみよう！

—— 今回は、サポセンスタッフに施設の使い方を聞いてみます。
図書コーナーにまつわるお話を、担当の太田貴さんにインタビューしました。

Q. さっそくですが、サポセンで扱っている図書の特徴は何ですか？

太田：やはり、NPO・市民活動に的を絞った図書が集まっていることですね。

Q. 利用者のみなさんがよく借りるのはどういう図書ですか？

太田：やっぱり市民活動全般の図書ですね。それから意外と根強い人気があるのは、ハウツー本のような。例えば会議の手法を学べる本や、効果的な広報のあり方について解説した本などがあります。

Q. なるほど。実際に活動をしていてちょっと困ったときに役立ちそうですね。

それでは、これから利用するみなさんに一言お願いします。

太田：サポセンの図書コーナーには、他の図書館にはない本がいろいろあります。ぜひのぞいてみてください。

—— サポセンスタッフ一同、みなさんのご利用をお待ちしています！

(担当：高橋 陽佑、本田 ふみ)



ミニサポダス

◆サポセンの利用状況を
毎月テーマを変えてお知らせしています！

■サポセンのホームページアクセス数は？ ～人気ページランキング～

サポセンのホームページには、施設の新着情報からサービス案内などさまざまな情報が掲載されています。どのようなページがよく閲覧されているのか、2007年6月のデータからランキングでお知らせします。

1日のうち、パソコン1台を1件とするアクセス数（ユニークユーザー数）は1,945件でした。それに対して、サポセンのホームページ内にあるサイトの総閲覧数は12,753件。一人あたり6.56ページの閲覧があります。

その内訳を見てみると、最も閲覧数が多いのは「サポセントップページ」で全体の29.4パーセントを占めます。次に「地図」、「サポートセンターとは」と続きました。

サポセンのサービスや概要、使い方を知るためにホームページを使うほか、「イベント情報」、「団体検索」などで情報収集をする方が多いようです。

（担当：本田 ふみ）

●サポセンホームページ・アクセスランキング6月

順位	ページ	アクセス数
1	サポートセンター：トップページ	2358
2	地図	660
3	サポートセンターとは	338
4	サービス案内	290
5	2007年6月期にサポートセンターで行なわれるイベント	232
6	市民活動団体検索	219
7	サポートセンター概要	181
8	貸室（部屋の種類・貸出備品）	175
9	初めての方へ	161
10	リンク集	158

●総アクセス数と一人あたりの平均

ユニークユーザー数※1	1945
ページビュー※2	12753
一人あたりのページビュー	6.56

※1…パソコン1台を1件としたアクセス数。一日のうちであれば、同じパソコンから何度アクセスがあっても1件とする。
※2…HP内にあるサイトの総閲覧数

サポ本を読もう！

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介します。



熱血こうごろう

荒町風雲録

著者：出雲幸五郎

発行：無明舎出版

定価：1,700円（税抜）

仙台に古くからある荒町という商店街を舞台に繰り広げられる町おこし奮闘記が本書なのですが、主人公である「幸五郎さん」の本業は町の文房具屋さんです。商店街に七夕を復活させたり、毎年昆沙門天の境内でコンサートを開いたり、日々思い立ったらすぐ行動しています。

その文房具屋さんになぜ町おこしできるんなら？そこには彼の育った「困った人がいたら迷わずに手をさしのべる」という必然的家庭環境があったのです。

子は親を見て育つといいますが、ややもすると、親子関係が希薄になりがちな現代にあって親の在るべき姿がこの本から見えてきます。子どもに期待するのではなく、子どもがステキだと思っ親でありたいものです。我が子を見つめながらそんな事を考えさせられた「子育て本」の側面も見えてきました。

担当 三井 克

サポセン広場

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

冷房を入れてもらいました。少し寒くなって止めてもらったり、また入れてもらったり、お手数かけました。

サポートセンターは団体でも個人でも、地域をより良くしようと市民活動で頑張っている人を応援します。スタッフが相談に乗りますので、お声掛けください。

部屋ごとに温度調整ができず、こちらこそお手数をおかけしました。冷房を止めると暑かったり、入れると寒かったりすることもあります。我慢をしないで事務局まで内線でご連絡ください。

団体ばかりでなく、一人で活動している人も応援してください。

アラカルト

◆市民活動の旬の話題やサポセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

NPO・小さな市民活動団体の運営の秘訣シリーズ 第1弾 立志編 報告

日時：2007年6月19日（日）18：30～21：30

場所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5

講師名：加藤哲夫氏

（特活）せんだい・みやぎNPOセンター代表理事

NPO・市民活動団体を立ち上げる時、何から始めるべきでしょう。活動を始めるためのポイント、中間の増やし方など『始めの一步』を学びました。

■市民活動とは何か

世間にある《ボランティア》に対する疑問は、1、なぜボランティアをするのか？（動機）2、ボランティアなのに税金が発生するのはどうしてか？（経済）というもので、「ボランティア＝無報酬で他人に奉仕したがる人」と思われがちです。しかし、例えば不登校の子どもを持った親が、不登校を考える親の会を作り、子ども達の置かれている状況を何とかしようとする活動があるように、旧来のボランティア観では説明しきれない活動がたくさんあります。このような活動は、社会にある様々な問題を解決するための「市民による自発的な問題解決行動」と説明することが出来ます。それらを市民（公益）活動といいボランティアもその一部と理解すると、人々に活動が伝わりやすくなります。

■活動をスタートする際のポイント

活動をスタートするときは、どのようなことに気をつけたらよいか、ポイントを見ていきましょう。

①活動をする仲間をつくる

活動を始めるには、団体の趣旨に賛同し、一緒に活動してくれる仲間づくりが欠かせません。仲間を集める方法としては、学習会やセミナー等を開催するとよいでしょう。取り組みたいテーマに関心のある人が集まってくるわけですから、そこから人を募るのです。学習会を開催するには、活動に関連した記事を切り抜くなど情報を集めて、講師を探したり、ビデオの上映会をしたりします。内容は市民に分かりやすく、自身も学びたいものでいいのです。

また、ニューズレターで人を集めるという手もあります。現在はマスコミやWebなどから情報が溢れていて、市民にとってはどの情報を選べばよいのか悩むところです。そこで信頼性があり、団体が取り組んでいる課題の当事者の声を掲載するなど、他の情報と違う面を持っている、しっかりとしたニューズレター（以下NL）を作りましょう。今ならブログも有効です。内容のある情報を継続して発信すると、関心のある人が賛同して仲間が増えることにつながります。

■活動を始めるときに考えること

まず、みなさんが何か活動を始めたいと思ったら、①どのような社会問題を解決したいのかを考えましょう。②次に問題の解決をするために取り組むべき事業やサービスのアイデアを考え、③それを継続して実行するための体制（しくみ）を作ることが必要です。誰がどんなことで困っているのか？それはどうすれば解決したと言えるのか？それをきちんと説明できることが、その活動が多くの人たちに伝わるかどうか、そして解決に有効かどうかの指標になるのです。

また、活動を起す前には情報を集めましょう。これから行いたいと考えている活動は、すでに他の地域で行われていることもあるので、成功例を入念に調べ参考にします。

②人が集ったら気をつけること

学習会やNLに関心を持つ人が集ってきたら、団体が解決したいと考える社会問題や、その課題の解決方法などを再確認して、団体の方針とルールをつくりまします。活動する上で、それらのルールに賛同できる人だけが残ればいいのです。団体の方針を話し合っってしっかり作っておかないと、人によって様々な意見があるので混乱が生じ、活動が上手くいかない原因になります。

③まず持ち寄る

活動をスタートする時の資源は、自分たちで持ち寄るという気持ちで始めましょう。活動の始めは資金がないのが当たり前です。自発的活動ですから、ぜひ自分たちのお金で活動を始めてください。自分たちで持ち寄りをしていない活動に、周囲からの支援や寄付は集まりません。活動をしていく中で団体に賛同してくれる人が集り、資源が集まるようになるのです。

助成金が欲しい、助成金で活動をすればいいという人がいますが、助成金は事業の企画が明確なものに出ます。自分の団体の成長に見合った活動を考えましょう。助成金のために計画を無理に作ると、助成金を受けても後々活動が苦しくなることもあります。

（担当：豊泉 昭子）

イベント 紹介 9月



- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。ご希望の方はお問い合わせください。

開催日	時間	イベントタイトル	貸室	参加費	主催	問い合わせ先
9/1	14:00 ～ 17:00	子どもの非行や荒れに親としてどう向き合えばいいのか？一人で悩まず一緒に分かち合いませんか？	研修室 2	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会	Tel1090-5235-4247 (野口りこ)
9/2	14:30 ～ 16:30	クリシュナ・リラ (ネパールミュージック コンサート)	市民活動 シアター	前売3,000円 当日3,500円	P. S. music&す あら・ばぐー す	Tel 022-267-2282 (すあら・ばぐー す)
9/6 ～ 全6回	18:30 ～ 21:00	リラックスとやりフレッシュに役立つフットケアを身につけよう!!	研修室 3	受講料20,000円 認定・申請テキ スト代10,000円 教材費7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場	Tel 022-223-9023 090-7564-9831 Fax 022-223-9023 (森)
9/16 ～ 10/15	開館時 間内	アフガニスタンを支援するNGOの活動紹介と中村哲医師講演会の案内	展示 スペース (5F)	なし (事前申込不要)	ペンシャワール 会を宮城から 応援する会	Tel&Fax 022-256-9055 (佐藤とも子)
9/19	19:00 ～ 20:30	デザイン力UP講座 /プロが教えるプロのやり方・発想	研修室 2	1,000円 (事前申込必要)	メディアデザ イン	Tel1090-3049-0613 Fax 022-224-5308 (千葉)
9/23	14:00 ～ 16:30	学習交流会『ヘルパーのつどい』 講演「これまでのヘルパーこれからのヘルパー」共に学ぶ交流の場	セミナー ホール	500円 (事前申込不要)	みやぎヘル パー・介護 労働者連絡会	Tel 022-236-9651 Fax 022-283-0035 (上條栄治)
10/21	9:50 ～ 17:00	HIVと共に学び共に生きる講座 第3回(第1回9/9、第2回9/23別会場にて開催)	研修室 5	全3回5,000円 (事前申込必要)	東北HIVコミュ ニケーション ズ(THC)	Tel&FAX 022-298-8532 (やまだまさこ)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

9 月 の 専 門 相 談	8日 (土)	地元学に参加しませんか？ 青空編集室 西大立目 祥子さん 地元学の会 元会長 東海林 一さん
	27日 (木)	環境系NPOを紹介します ACT53仙台 代表 矢吹真理子さん (特活) 広瀬川の清流を守る会 代表 日下 均さん

サポセンの3階にある
シニアセンターからの情報をお届けします！

- 会場＝市民活動サポートセンター両日とも研修室1
- 対象＝50歳代後半以降のシニア世代の方で、地域活動や市民活動について知りたい方、参加してみたい方
- 費用＝無料 ●相談時間＝1時間程度(要事前予約)
- 定員＝個人／グループでも可

■問い合わせ・申込み

仙台市シニア活動支援センター

TEL 217-3983 FAX 217-3984 (担当：真壁、小林)

お知らせ



NPOいろは塾 参加者 大募集!

- ・新聞やテレビでよく耳にするNPOって何だろう?
- ・ボランティア活動に興味があるけど、何から始めたらいいのかな?
- ・これからNPOとして地域の役に立つ活動を始めたい! そんなNPOの基礎についての疑問に、短時間(90分)でわかりやすくお答えする講座です。

◆開催日時: 9月13日(木) 14:30~16:00

◆定員: 10名(先着順)

◆塾長: 仙台市市民活動サポートセンター スタッフ

◆会場: 仙台市市民活動サポートセンター 研修室2

◆資料代: 500円

(当日受付にてお支払いください。)

◆申込み・問合せ

仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

編集後記

● 9月1日は何の日でしょう? 答えは、この一番町にあるサポセンが移転オープンした日です。去年のことなのですが、遠い昔のことのように感じます。みなさんにご利用いただいて1周年。これからもサポセンをよろしくお願いします!

● (本田 ふみ)

● 9月29日(土)、市民活動シアターのオープン1周年を記念して「アートのカラ」と題したパネルディスカッションが行われます。今、アートの現場で何が起きているのか。実践者たちが討論を繰り広げます。詳しくはチラシ・HPにて。

● (千葉 やす恵)

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

● 開館時間 平日/午前9時~午後10時
日曜・祝日/午前9時~午後6時

● 休館日のお知らせ(施設点検等のため)
8/29(水) 9/26(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

○貸室

(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。

○ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)

○交流サロン

少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)

○情報サロン

市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の開覧、貸出も行っていきます。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)

○印刷作業室

印刷機(紙持ち込み)/1製版100円、紙折り機(無料)
コピー機(1枚10円)

問い合わせ先

発行: 仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者: 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日: 2007年8月20日

編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人: 本田ふみ 千葉やす恵

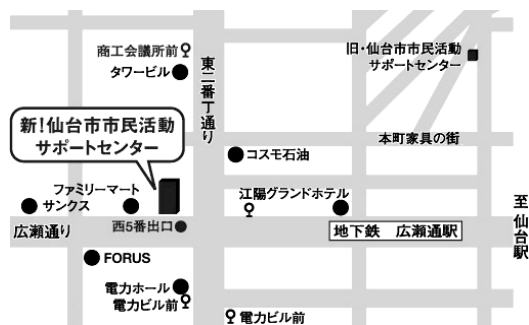
★古紙100%使用再生紙を使用しています。

★大豆油インキを使用しています。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間: 2007年4月1日~2010年3月31日

案内図



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停] 電力ビル前、商工会議所前、

広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄] 広瀬通駅西5番出口すぐ

□当施設に駐車場・駐輪場はございません。

お車や自転車でご来館される方は、

周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。